

B-95 おむつカバーの研究 (第3報)
通気カバー内の温度変化について

福岡女子大 平松 園江
福岡女学院短大 ○花田瑠美子

1. おむつカバーに通気性が必要なことが明らかにされ、種々通気を工夫したカバーが市販されている。盛夏時特に通気カバー使用が必要である。盛夏時、3種の通気カバーを使用し、カバー内温度に相違があるかをしらべると共に、日常不通気ビニールカバーを使用している乳児院の乳児と、日頃毛製カバーを使用している家庭の乳児に3種のカバーをさせた場合、生活履歴が影響するかも調べてみたいと思った。さらに扇風機を用いる時のカバー内温度の違いもしらべ、カバーの選択、衛生的用い方のよりどころを確かめたいと考えた。

2. 乳児の腹部、鼠蹊部にサーミスター温度計を固定し、各種カバーを着用させ、10分間おきに40分間、温度の変化を測定した。同時に着用45分後のカバー内湿度を、ミニマ鋭感湿度計で測定し、比較検討した。なお、カバーは、孔明ビニール、純毛、綿・合繊混紡の3種である。

3. いずれの場合も、孔明ビニールカバー着用時の温度が他に比べて高く、混紡のものが低温でうっ熱が少ないことが認められ、その温度差は、扇風機使用の場合の方が大きい。しかし、孔明ビニールカバーもあまり高温にはならない。湿度は、孔明ビニールカバー着用の際が高く、毛のものが低かった。